

1. 樹種選定での留意点

樹種の選定は維持管理と景観に影響するので十分検討をする。

- ① 計画地の気象条件に適した樹種を選定する。(寒冷地、降雪地、海岸地等)
- ② 10年後、30年後の樹木の生育を考慮した樹種の選定をする。
- ③ 植栽計画地の日照条件、ビル風の影響などの植栽環境条件を考慮して樹種を選定する。
- ④ 植栽基盤の状況(有効土層厚、幅、量)を考慮して樹種を選定する。
- ⑤ 維持管理(病害虫、剪定等)を考慮して樹種を選定する。
- ⑥ 集合住宅の場合は、住戸や近隣への日当たりを考慮した樹種を選定する。
- ⑦ 環境に配慮し、できるだけ在来種から樹種を選定する。
- ⑧ 四季の花、紅葉、香を考慮した植物の選定が望ましい。

2. 植栽環境の把握

計画地の気温や降雨、降雪などの気象条件、海からの潮風の影響、周辺のビルの影響による日照条件などで樹種や樹木の配置は異なる。植栽環境を把握して植栽計画をする。

<表1> 植栽環境と植栽計画での留意点

環境	留意点	備考
寒冷地	① 北海道や東北、長野などの寒冷地では、落葉広葉樹や針葉樹など寒冷地に適した樹種を選定する。 ② 地域の差があるので、地元の造園会社の意見を聞く。	
降雪地	① 灌木の密植ではなく、耐雪性のあるグランドカバープランツ類(ハイビヤクシン、ハイネズ、ピンカミノール等)を検討する。 ② 樹木支柱は積雪を考慮したものとする。	* 雪囲いの維持管理費の軽減
少雨地	① 瀬戸内海沿岸地区などでは、サツキやヒラドツツジなど根が浅く乾燥に弱い樹木は多用しない。乾燥に強いシャリンバイやわい性のアベリア類、ハイビヤクシン、ハイネズなどを植栽する。 ② ドリップホースを敷設する。雨水貯留・利用を図る。	
海岸地	① 潮風に強い樹木を選ぶ。落葉広葉樹、シマトネリコは一般的に潮風に弱いので注意する。直接潮風の影響受けない場所では落葉広葉樹の植栽も可能であり、検討する。 ② 高潮の影響や排水性を考慮して盛土や植栽地を高くして植栽する。	* 根腐れ防止
埋立地	① 埋立地の場合、一般的に地下水位が高いので、盛土、築山して植栽する。暗渠排水を設ける。 ② 路盤改良で石灰などを使用するため土壌がアルカリとなっているので注意する。必要によって土壌改良をする。	* 根腐れ防止
都心	① 植栽基盤条件が一般的に劣悪であり、植栽基盤調査をし、全面客土とするなど検討する。	
関西	① 土壌が団結しやすく、保水性がなく、栄養分がない砂質系の花崗岩風化土のマサ土で、土壌改良材の混入が必要である。また、夏場雨が比較的小さいので植物も乾燥に強い樹木が適する。サツキ、ツツジ類は弱いので多用しないのが望ましい。	

2. 集合住宅の庭等で管理上問題となる樹木例

分類	樹木名	注意する理由
害虫	・ヤブツバキ、サザンカ	チャドクガは、毒針毛が皮膚に触れたり、刺さったりすると激しい痛みを生じる。植える場所に十分注意する。
	・シヤラノキ、ヒメシヤラ	ツバキ科でチャドクガが発生することがあるので、植える場所に注意。ベランダに近い場所には植えない。また西日に弱い。
	・ボックスウッド、クサツゲ	ツガノメイガの被害が大きいため注意が必要。
	・サンゴジュ	サンゴジュハムシの被害が大きいため注意が必要。
	・マサキ	ユウマダラエダシャクの幼虫が大発生しやすいので注意が必要。
	・クチナシ	オオスカシバの食害を受けやすいので注意する。
	・サクラ類	虫害が発生しやすいので消毒がしづらい場所や、落葉が問題となる場所には植えないのが望ましい。
病気	・ベニカナメモチ	ごま色斑点病の被害を受けやすい。代替としてレッドロビンを植える。
	・ハナミズキ	うどんこ病が発生しやすい。乾燥しやすい場所には注意が必要。
	・モチノキ	すす病が発生しやすい。風通しの悪い場所には植えない。
	・ジンチョウゲ	モザイク病が発生しやすいのでまとめて植えない。
	・ヒペリカムカリシナム	さび病が発生しやすいの注意する。
落葉	・ケヤキ、エノキ、ハルニレ	落葉樹で大木となる樹木は、剪定と落葉処理で問題となる。植える場所に注意が必要。
臭い	・イチョウ(雌株)	ギンナンの悪臭が問題となるので注意が必要。
	・ヒサカキ、ハマヒサカキ	悪臭の花を咲かせるので、風通しの悪い中庭などには植えない。
剪定	・マツ類	剪定とマツクイムシの問題がある。
刈込	・アベリア	徒長枝が出やすく剪定の回数が増える。
	・ベニバナトキワマンサク	徒長枝が出やすく剪定の回数が増える。
	・シルバープリペット	徒長枝が出やすく剪定の回数が増える。
	・カイズカイブキ	生垣では剪定が難しく、こまめな剪定や刈込みが必要となる。
規制	・ビヤクシン類	ナシ栽培の場所では、赤星病を中間宿主となるので植えない。
	・特定外来生物	外来生物法に基づき環境省が指定する特的外来生物及び要注意外来生物は植えない。



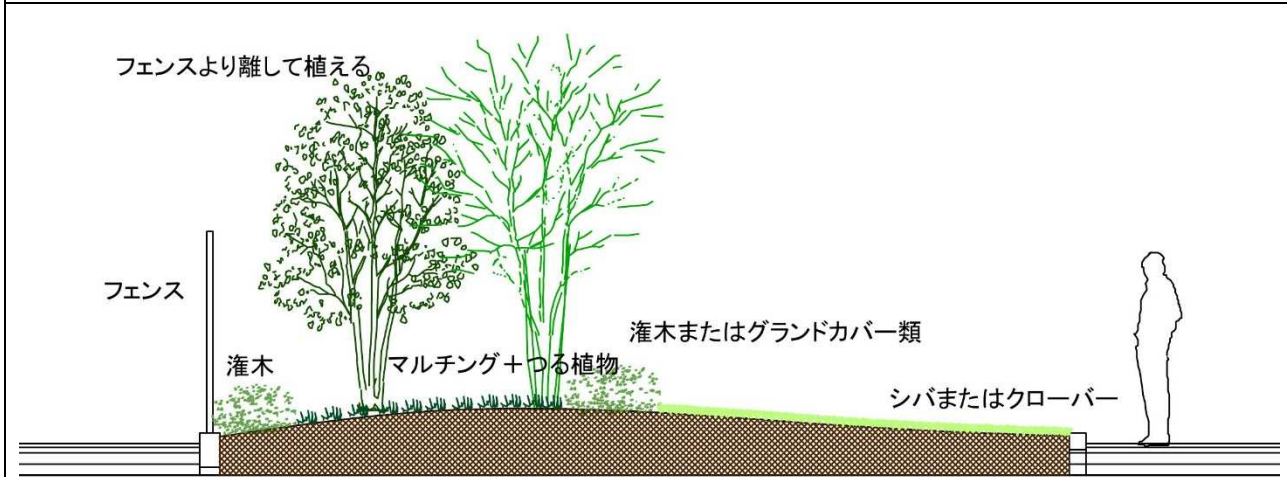
・住戸への日当たりを考慮したシラカシの強剪定



・高所作業車によるサクラの剪定

3. 外周部の植栽での留意点

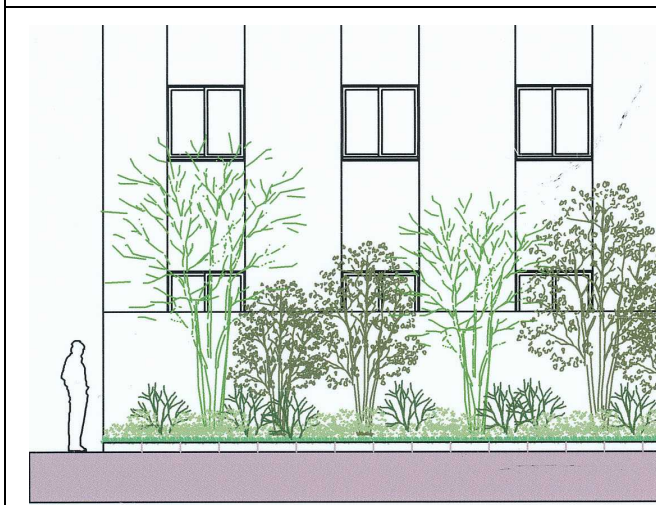
- ① 外周部の高木はできるだけ種類の樹木を植える。常緑樹主体で落葉樹も混植するのが望ましい。
- ② 高木の植栽位置は、敷地外に越境して枝を常に剪定しなければならないように敷地際には植えない。
- ③ 広い植栽エリアでシバやクローバーなどの地被植物で使用する場合には、日照条件を考慮する。
- ④ 法面の場合には、2割勾配以下、できれば3割勾配にして灌木の植栽が望ましい。



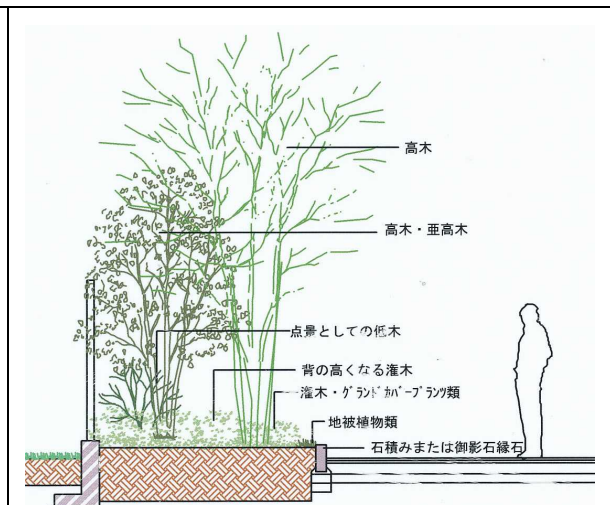
<図1>外周部の植栽断面図例

4. 集合住宅の緑地幅が広いアプローチの植栽での留意点

- ① 植栽有効幅が2m以上の場合は、高さ5m以上の高木、垂高木を植え、点景となる中木、低木をバランスよく配置し、密な灌木とグランドカバーを植えて、手前に根締めめの地被植物を列植が望ましい。
- ② 南面では、住戸への日照を考慮して、あまり大きく成長しないヤマボウシの株立ちなどの花木を主木として、垂高木として、常緑樹のソゴや常緑ヤマボウシの株立ちを配置し、点景中木としてキンモクセイやカラネオガタ、点景低木としてドウダンツツジやアジサイ類の植栽が望ましい。
- ③ 北面では、モミジ類やエゴノキ、シャラノキの株立ちなどの花木を主木とし、シラカシの株立ち、ソゴなどの高木・垂高木を植栽し、点景木としてアジサイ類の植栽が望ましい。
- ④ 石積みまたは御影石縁石を設け、高さは15cm以上40cm以下を基準とするのが望ましい。



<図2>アプローチグリーン 立面図例



<図3>アプローチグリーン 断面図例

5. 植栽事例



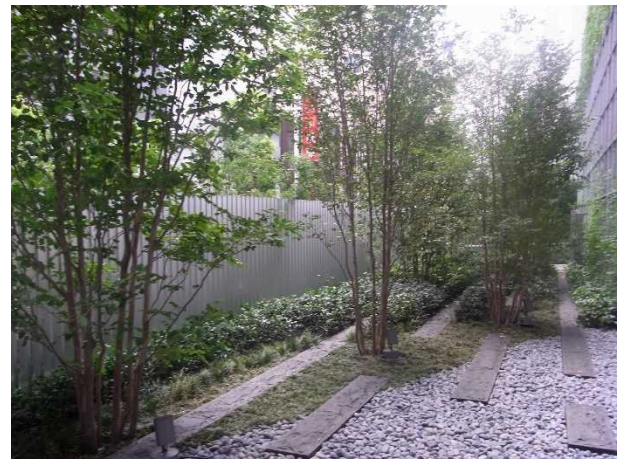
・ビル風と杜づくりを考慮した常緑樹主体の植栽



・四季を楽しめる緑を考慮した商業施設の植栽



・落葉などのメンテを考慮したソヨゴの株立ちの植栽
のホテル屋上庭園の植栽



・日照条件を考慮したナツツバキ株立ちとカンツバキ、タマリユマツ張り植栽



・日照条件を考慮したイロハモミジ株立ちとソヨゴの植栽の北側入口の集合住宅の植栽



・目隠しを考慮した高生垣とハナミズキやヤマボウシ、シダレウメの植栽